

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-89	高等学校	地理歴史科	地図	1~3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-310	新詳高等地図		

1. 編修の趣旨及び留意点

○ “新しい社会を生み出す創造力” の育成をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、様々な変化が急速に進んでおり、高校生が身につけるべき知識や教養も変化している。私たちは、高校生が日本の伝統をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注いだ。

その上で私たちは今回の地図帳の編修にあたって、これからの社会を生きていく高校生に対し、“現代社会の世界・日本の現状を的確に捉え、これからの時代を切り開く創造力を身につけた人間” になってほしいと考えた。社会に対する安心感をいさながら平和な生活を持続していくためには、現在の社会の成り立ちやしぐみを知るだけではなく、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていく能力が必要である。その“創造力” を育成することができるよう、私たちは以下のような点に留意して地図帳を編修した。

1. 世界・日本各地の現状を多面的な視点で的確に把握できる地図帳
2. 世界・日本各地に暮らす人々の営みや、工夫・努力が見える地図帳
3. 現代社会の諸課題と、その解決に向けての取り組みが見える地図帳
4. これからの時代を切り開く創造力を育む地図帳

2. 編修の基本方針（教育基本法第2条への対応）

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

→ 「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い」 について、本書では、我が国および世界の諸地域の自然・社会的要素—地形や気候、民族、宗教、産業など—について捉え、日本の国土理解、世界の諸地域への理解を深めていくことが重要と捉えた。

- ① 世界・日本の諸地域に関する幅広い知識と教養を身に付けられるよう、美しい地図と、わかりやすい資料を豊富に掲載した。
 - ・世界の地図では、基本となる地図で国名や基礎的な地名、自然地域名称などをまずはしっかりとおさえ、拡大図でさらに詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。
 - ・日本の地図では、基本となる地図で日本の位置や47都道府県、主要な都市などをまずはしっかりとおさえ、拡大図で各地方の詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。
 - ・世界の諸地域に関しては、地域ごとに歴史や民族、農業や工業などの産業、人々の暮らしの様子が分かる資料図を豊富に掲載した。また、他の資料図との縮尺をなるべく統一することで、比較や重ね合わせをしやすくし、より理解を深められるように配慮した。→例：p.11-12 中国資料図
 - ・特集ページ「GLOBAL EYE」や、「クローズアップ」コーナーを設け、変容を続ける世界各地の今の姿を教養として身に付けられるよう配慮した。→例：p.58「GLOBAL EYE ヨーロッパ-EUの結束と地域格差」、p.84「クローズアップ 変化するブラジルの農業」

・我が国の国土の自然環境や産業，交通などの幅広い知識と教養を身に付けるため，これらの内容を系統的に学習できる資料図を豊富に掲載した。→[p.139-142 日本の資料図](#)

第2号 個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うこと。

→「個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い」について，本書では，どのような生徒でも等しく地図帳を使いこなしながら，その学びを通して，学力や創造力などを成長させていけることが重要と捉えた。

- ① 地図帳の活用を通して能力を伸ばしていけるよう配慮した。
 - ・読み取りが難しい資料図に対しては，用語や事象を解説した「解説」コーナーや，地図の見方・考え方を養える「考察」コーナーを配し，資料図を活用して思考・判断・表現できるよう配慮した。
 - ・世界の地図には，国名や都市名，自然地域名称に欧文を並記することで，将来海外でも活躍できる人材を育成できるよう配慮した。
- ② 誰にとっても，見やすい，わかりやすい地図帳を目指した。
 - ・色覚に特性を持つ生徒にも地図が読み取りやすいよう，世界と日本の地図ページでは赤文字の国名や都道府県名を黒色で縁取りした。また，資料図ページでは，似た色の識別がしやすくなるよう，格子模様や地紋を入れた。

→「職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養い」について，本書では，世界・日本各地に暮らす人々の営み，特に仕事に対する工夫，農林水産業や工業など社会を支える産業への理解を深め，生徒自身の勤労に対するイメージや意欲を高めることが重要と捉えた。

- ① 世界各地の人々の営みが地図から読み取れるよう工夫した。
 - ・世界の地図では，拡大図に「土地利用表現」を用いることで，それぞれの地域でどのような土地利用がなされながら人々の生活が営まれているのかが分かるようにした。また，各地でさかんな鉱工業についても多彩な絵記号を配し，地域の特性を読み取れるようにした。
 - ・世界の諸地域には，地域ごとの農業や鉱工業などの産業動向を捉えられる資料図を多く配した。
- ② 日本各地の人々の営みが地図から読み取れるよう工夫した。
 - ・日本の地図では，拡大図に各地でさかんな鉱工業の絵記号を配し，地域の特性を読み取れるようにした。
 - ・日本のおもな都市に関しては都市図を多く掲載し，それぞれの都市の土地利用の様子などから，都市機能の特徴や人々の生活の営みが伝わるよう配慮した。
 - ・日本の産業に関する資料図を設け，日本の産業の特徴を学べるよう配慮した。→[p.142 日本の資料図](#)

第3号 正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うこと。

→「公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養う」ことについて，本書では，世界・日本の現状や諸課題に目を向け，生徒自身が地球の一員として考えていくことが重要と捉えた。

- ① 生徒自身が，世界各地の現状や諸課題について学ぶ中で，社会の形成に参画するという意識を育むことできるよう配慮した。
 - ・「解説」や「考察」などの学習課題コーナーを設け，地図を通じて主体的に社会の課題を見つけられるよう配慮した。（第2号前項①を参照）
 - ・世界の大国や地域機構が，経済的な発展のためにどのような結びつきを強めているのか，特集ページ「GLOBAL EYE」で取り上げ，これからの時代を切り開いていくために，どのような視点が大切なのか捉えられるようにした。

- ・環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題など、現代社会が抱える諸課題を読み取れる資料図を多く配し、これらの諸課題の背景などを考えられるようにした。→[p.129～138](#)

第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

→「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、生命のかけがえのなさと、現在の地球の自然環境や環境問題を理解し、生命や自然環境の保全に寄与する態度を養うことが重要と捉えた。

- ① 災害から生命を守るという観点を重視し、地図帳で防災についても学べるように配慮した。
 - ・日本の自然環境に関する資料図のページで、火山や地震、津波などの自然災害に関する資料図、ハザードマップの例などを掲載し、災害時に生命を守ることの大切さを学べるようにした。→[p.140 日本の資料図](#)
 - ・扇状地や氾濫原などの小地形の学習ページでも、その地域で起こりうる自然災害に対する意識を高められる「考察」コーナーを配した。→[p.122② 堆積平野](#)
- ② かけがえのない自然環境の保全や環境問題に対する関心を高められるよう、環境に関する様々な資料を掲載した。
 - ・世界・日本の地図中に、「世界自然遺産」や「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し、環境への関心を高められるよう配慮した。
 - ・環境問題に関する特設ページを設け、様々な環境問題の世界的分布の特性、おもな環境問題の原因や各地での現状などを把握し、環境保全に向けての意識を高められるよう配慮した。→[p.129-130 環境問題](#)
 - ・環境をテーマにした資料図を、世界の諸地域の資料図ページでも適宜掲載した。
→例) [p.12⑫「越境する大気汚染（予測）」](#)、[p.24①「巨大農園の開発」](#)

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

→「伝統と文化を尊重する」ことについて、本書では、日本で育まれてきた伝統や文化および、それらを将来にわたって継承していくことの大切さを理解することが重要と捉えた。

- ① 先人によって育み、継承されてきた優れた伝統や文化を尊重し、次代へ引き継いでいくことの大切さが理解できるよう、記載内容や資料を工夫した。
 - ・日本の伝統・文化を象徴する「世界文化遺産」に関して、地図中で特殊凡例にて掲載した。また、日本の伝統や文化を育んできた歴史に関して地図で確認できるよう、史跡や歴史的に重要な地名、古戦場跡なども特殊凡例で地図中に多く掲載した。
 - ・平成の大合併でなくなった旧市町村名は、古くから残る祭りや伝統的工芸品、特産品名に残るなど、地域の文化にとって重要であると考え、全て字名として記載した。

→「我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では、郷土を愛したり、他国やそこに暮らす人々を尊重したりするためには、正しく幅広い国土理解と、世界の諸地域への理解が重要と捉えた。

- ① 正しい国土理解、世界の諸地域への理解に資する地図帳となるよう、世界・日本とも基礎的・基本的な内容をもれなくおさえ、わかりやすく表現した。
 - ・日本の地図ページの最初に、日本の領土・領域や排他的経済水域について正しく学べるページを新設した。日本の東西南北端の写真や、日本固有の領土に関する資料図も配することで、近隣諸国の中での日本の位置や、領土の広がりなどが一層理解できるようになった。→[p.93-94 日本の位置とまわりの国々](#)
 - ・世界の諸地域の民族や宗教などの文化を学べる資料図を多く掲載した。また、宗教や民族に関しては、世界中の多様な文化を大観できる資料図も掲載した。→[p.137-138 言語・宗教・難民](#)

3. 教育基本法との対照表

本書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・日本・世界の自然、産業、歴史など、様々な情報を地図上に幅広く取り上げ、空間認識をともなった幅広い知識や教養が身につくように配慮した。(第1号) ・色覚に特性のある生徒にも地図や資料が読み取りやすいよう、地図ページ中の国名・都道府県名の赤文字には、黒色で縁取りをした。また、資料図ページでは、似た色の識別がしやすくなるよう、格子模様や地紋を入れた。(第2号) 	<p>本書全体</p> <p>本書全体</p>
世界の国々 (p.1-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・2ページのなかで、世界の全ての国の位置・国名・首都名などを端的に把握できるようにした。(第1号) 	p.1-2
世界の基本図・拡大図 (p.5-92)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる地図で国名や基礎的な地名、自然地域名称などをしっかりとおさえ、拡大図でさらに詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。(第1号) ・拡大図に「土地利用表現」を用いることで、それぞれの地域でどのような土地利用がなされながら人々の生活が営まれているのかが分かるようにした。また、各地でさかんな鉱工業に関しても多彩な絵記号を配し、読み取れるようにした。(第2号) ・「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し、環境への関心が高められるように配慮した。(第4号) ・同緯度・同縮尺の日本図を随所に用意し、日本との位置関係や大きさを比べながら世界を学べるよう配慮した。(第5号) 	<p>p.5-92</p> <p>p.5-92</p> <p>p.5-92</p> <p>p.35 他 7 か所</p>
世界の地域資料図 (p.5-92)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地域ごとに歴史や民族、農業や工業などの産業、人々の暮らしの様子が分かる資料図を豊富に掲載した。(第1号) ・読み取りが難しい資料図に対しては、用語や事象を解説した「解説」コーナー、地図の見方・考え方を養える「考察」コーナーを配し、資料図を活用して思考・判断・表現できるよう配慮した。(第2号) ・世界の大国や地域機構が、経済的な発展のためにどのような結びつきを強めているのか、特集ページ「GLOBAL EYE」で取り上げ、これからの時代を切り開いていくために、どのような視点が大切なのか捉えられるようにした。(第3号) 	<p>p.11-12 他</p> <p>p.26 他</p> <p>p.16 他 4 か所</p>
日本の位置とまわりの国々 (p.93-94)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土・領域や排他的経済水域について正しく学べるページを新設した。日本の東西南北端の写真や、日本固有の領土に関する資料図も配することで、近隣諸国の中での日本の位置や、領土の広がりなどが一層理解できるようになった。(第5号) 	p.93-94
日本の基本図・拡大図・都市圏図・都市図 (p.95-120)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる地図で日本の位置や47都道府県、主要な都市などをまずはしっかりとおさえ、拡大図で各地方の詳細な地名や自然地域名称を確認できるよう配慮した。(第1号) ・拡大図に各地でさかんな鉱工業の絵記号を配し、読み取れるようにした。また、日本のおもな都市に関しては都市図を多く掲載し、それぞれの都市の土地利用の様子などから、人々の生活の営みが伝わるよう配慮した。(第2号) ・「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し、環境への関心が高められるように配慮した。(第4号) ・平成の大合併でなくなった旧市町村名は、地域の文化にとって重要であると考え、全て字名で記載した。(第5号) 	<p>p.95-120</p> <p>p.95-120</p> <p>p.95-120</p> <p>p.95-120</p>
世界の基礎資料図(p.4,121-138)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題など、現代社会が抱える諸課題を読み取れる資料図を多く配し、これらの諸課題の背景などを考えられるようにした。(第3号) ・環境問題に関する特設ページを設け、様々な環境問題の分布や原因、各地での現状を把握し、環境保全に向けての意識が高められるよう配慮した。(第4号) ・世界の言語や宗教など、世界の文化を大観できる資料を掲載した。(第5号) 	<p>p.129-138</p> <p>p.129-130</p> <p>p.137-138</p>

日本の資料図 (p.139-142)	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土の自然環境や産業，交通などの幅広い知識と教養を身に付けるため，これらの内容を系統的におさえられる資料図を豊富に掲載した。(第1号) ・火山や地震，津波などの自然災害に関する資料図，ハザードマップの例などを掲載し，災害時に生命を守ることの大切さを学べるようにした。(第3号) 	p.139-142 p.140
統計資料・さくいん(p.145-171)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界・日本とも統計資料を充実させることで，数字に裏付けられた世界・日本の姿，位置づけを理解できるようにした。(第1号) 	p.145-156

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 長期間の使用に耐えうる造本
 - ・高校卒業後の使用も視野に入れ，長期の使用に耐えられるよう，ノド部分を糸かがりした上で糊付けし，丈夫に製本した。
- 環境問題・資源問題にも配慮し，「再生紙」と「植物油インキ」を使用
 - ・環境問題，資源問題について学習する生徒が使用する教材であることに配慮して，全頁にわたって再生紙と植物油インキを使用した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-89	高等学校	地理歴史科	地図	1～3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地図-310	新詳高等地図		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

■世界・日本の今の姿を的確に捉えることができる地図帳

変化が著しい現代社会にあって、世界・日本各地の今の姿を、基本図や資料図からの的確に捉えられるよう、以下のような特色をそなえた地図帳を編修した。

—本書の特色—

- 特色 1 見やすい基本図と豊富な拡大図で世界を深く理解できる地図帳
- 特色 2 AB判のワイドな判型を生かし、これまでにない新しい図取りを追究した地図帳
- 特色 3 世界各地の最新の動向が分かる資料性の高い地図帳
- 特色 4 日本の国土理解に資する地図帳
- 特色 5 見やすさ・活用のしやすさを追究した地図帳

特色 1 見やすい基本図と豊富な拡大図で 世界を深く理解できる地図帳

① 見やすい等高段彩表現の基本図で世界全域をカバー

- ・基本となる地図は標高で配色する等高段彩表現で統一した。また、段彩に鮮やかな緑色や明るい茶色などを用い、明るく見やすい配色に心がけた。
- ・文字はできるだけ大きくし、重要な地名を読み取りやすくした。

② 土地利用や植生が分かる地図表現の拡大図を豊富に掲載

- ・より詳細な情報を確認したい地域には拡大図を豊富に用意した。拡大図では、土地利用や植生が分かる地図表現を導入したり、都市別の工業の様子分かる工業記号を掲載したりすることで、人々の生活や産業の様子が伝わるよう心がけた。
- ・特にヨーロッパでは、近接する地域の拡大図の縮尺を520万分の1で揃えることで、比較を行いやすいよう配慮した。
→p.43-44「ヨーロッパ中央部」、p.49-50「イベリア半島」、p.51-52「イタリア半島・バルカン半島」

③ 情報量が多いヨーロッパとアメリカ合衆国の中心部にさらなる拡大図を掲載

- ・情報量が多く拡大図でも読み取りにくかったヨーロッパとアメリカ合衆国の中心部に対し、さらに拡大表示した地図を掲載し、これらの地域の情報を読み取りやすくした。
→p.45-46「EU要部」、p.73-74「アメリカ合衆国北東部」
- ・さらなる拡大図を掲載したことで、これまでの拡大図のページでは、重複した情報を精選し、地図の見やすさを追究した。
→p.43-44「ヨーロッパ中央部」、p.71-72「アメリカ合衆国中央部・東部」にて精選を実施

特色2 AB判のワイドな判型を生かし、 これまでにない新しい図取りを追究した地図帳

① 中東やウクライナなど、情勢の変化が激しく注目が集まる地域の新図を多数掲載

- ・ISIL「イスラム国」問題で注目が集まるシリアやイラクから、イスラームの聖地であるメッカまでがのぞめる拡大図を掲載。 →[p.33-34「中東要部」](#)
- ・クリム半島のロシア編入問題などで注目されているウクライナを中心に、ロシアから東欧、カフカス諸国まで一望できる拡大図を掲載。 →[p.61-62「東ヨーロッパ・ロシア連邦要部」](#)
- ・大豆栽培が急増しているパンパからセラード地帯、熱帯林の伐採が進むアマゾンまでが一望できる拡大図を掲載。 →[p.83-84「南アメリカ要部」](#)

② ワイドな判型を生かし、地域間の結びつきが読み取れる図取りの地図を多数掲載

- ・例えば世界では、南アジアの地図の掲載範囲が東西に広がり、東南アジアや西アジアの見渡せる範囲が増え、地域間の結びつきが読み取れる図取りとなった。 →[p.27-28「南アジア」](#)
- ・また日本では、四国地方の地図が東は近畿地方の潮岬、西は九州地方の別府市まで見渡せるようになり、東西での結びつきが読み取れるようになった。 →[p.103-104「四国地方」](#)

特色3 世界各地の最新の動向が分かる 資料性の高い地図帳

① グローバル化のなかで地域性を発する国・地域を特集ページ「GLOBAL EYE」で紹介

- ・学習上重要な国・地域で、日本との結びつきも強い中国・ASEAN・インド・EU・NAFTA に関して特集ページを設置した。貿易などのモノ、移民などのヒト、投資などのカネなどの視点を中心とし、グローバル化する現代社会にあって、それぞれの国や地域がどのような地域性を出そうとしているのかが分かる資料図を多数掲載した。
→例) [p.58「ヨーロッパ・EUの結束と地域格差」](#)
[ヨーロッパの域内・域外貿易とその変化、EUとしてのまとまりの歴史、域内の地域格差の様子が分かる資料図をまとめて掲載した。](#)
- ・特集ページでは、取り上げた国や地域機構の面積・人口・GNIの世界比のグラフを共通して掲載し、中国などの大国やEUなどの地域機構の世界に占める地位が比較できるようにした。

② 基礎的なものから最新の動向まで様々な世界の資料図を掲載

- ・特に最新の地域動向を扱った資料図には、「クローズアップ」のロゴマークを付して一目で分かるようにした。 →例) [p.84「変化するブラジルの農業」](#)
- ・「通信」のような変化が著しい分野では、スマートフォンやタブレットPCの普及、発展途上国での携帯電話の普及などの新しい動向が読み取れる資料図を多数掲載した。 →[p.172「通信」](#)

特色4 日本の国土理解に資する 地図帳

① 日本の領土とその広がり正しく学べる地図を掲載

- ・日本の部が始まる最初の見開きページに、日本の領土や排他的経済水域などが学べる地図と資料図を掲載。日本の東西南北端、領土問題のある北方領土や竹島の位置などを的確に把握できるようにした。 →[p.93-94「日本の位置とまわりの国々」](#)
- ・日本の北端である北方領土の択捉島から西端である与那国島までを連続して見渡せる、縮尺500万分の1の日本列島の地図を4ページに渡って掲載。日本列島の広がりを把握できるようにした。 →[p.95-96「日本列島\(I\)」](#)、[p.97-98「日本列島\(II\)」](#)

② 日本の八地方を拡大図で掲載

- ・日本は九州，中国，四国，近畿，中部，関東，東北，北海道の八地方に区分し，100 万分の 1 と 120 万分の 1 の縮尺の地図で拡大図を掲載した。
- ・京阪神と東京の大都市圏では，さらに 50 万分の 1 の拡大図を掲載した。また，福岡市や仙台市など，各地方の重要都市の都市図も掲載した。 →例) p.107「京阪神」，p.115「仙台市中心部」

特色 5 見やすさ・活用のしやすさを追究した 地図帳

① カラーユニバーサルデザインに配慮し，見やすさを追究

- ・色覚に特性をもつ生徒でも色を判別して地図が読めるよう，色彩表現を工夫した。また，色彩だけでは判読が難しい場合は，模様を入れるなどして判別しやすい表現を追究した。
→例) p.71-72「アメリカ合衆国中央部・東部」
土地利用・植生の凡例のうち，稲作地には格子模様，草地・牧草地には草の模様を入れた。
- ・地図ページでは，赤文字国名を黒色で縁取りしたり，道路を黒色の二条線にしたりするなど，判読しやすい地図表現を追究した。

② 資料図の読図をサポートする「解説」と「考察」を設置

- ・資料図中の難しい用語や事象の背景などを分かりやすく解説し，読図の助けとなる「解説」コーナーを設置した。 →例) p.26 インドの ICT 産業に関する「解説」
- ・資料図から考えられること，さらに発展して調べられることなどを簡単な作業を交えて，生徒自身で理解をより深められるよう「考察」コーナーを設置した。
→例) p.122 氾濫原の利用と自然災害の発生に関して課題を考えさせる「考察」

③ 地球的課題にもアプローチした分かりやすい「統計資料」のページ →p.145~156

- ・「統計資料」のページもカラー印刷にすることで見やすくした。
- ・また，高齢化問題（老年人口率），教育問題（非識字率）や環境問題（二酸化炭素排出量，国土に占める森林割合），南北問題（1人あたりの国内総所得）に関する各国統計など，地理歴史科，公民科の学習において必須の地球的課題に関する客観的なデータを掲載した。

④ 引きやすく見やすい，充実した「さくいん」 →p.157~171

- ・「さくいん」は，文字の大きさを従来よりも大きくし，見やすさの改善を行った。
- ・また，世界の部では国名は赤太文字，首都名は赤字に，日本の部では都道府県名は赤太文字，都道府県庁所在地は赤文字で示し，分かりやすくした。さらに，世界遺産や鉱山，市町村などの記号を付し，探しやすくするとともに，その地名の性格が分かるように配慮した。

⑤ 地理的分野以外の場面でも活用できる様々な工夫

- ・地図ページに世界史や日本史の授業で扱われる歴史地名などを示す「史跡・歴史的に重要な地名」や「古戦場跡」を記載したほか，歴史上のある時代を取り上げた地図や資料図を掲載した。
- ・現代社会などの公民科でも活用できるよう，環境問題に関する資料図や地域機構とその貿易構造に関する資料図などを多数掲載した。
- ・世界遺産やラムサール条約登録湿地など，汎用性の高い内容は特殊凡例を設け，地図上で位置や地名を確認できるようにした。
- ・社会に出てからも活用できるよう，地図に示している多くの地名や自然地域名称に対して，欧文を併記した。

2. 学習指導要領との対照表

本書の構成・内容	構成・内容の特色	学習指導要領の内容
世界の国々 (p.1-2)	<p>【世界史 B】…日常生活で用いられる世界の地図や国旗から、世界の歴史が捉えられることを理解する。</p> <p>【地理 B】…世界の大陸や海の分布、我が国の国土や国々の位置関係、自然環境、諸地域の様子を大きく捉える。現代世界を地域機構による結びつきで捉えることの有効性を理解する。</p>	<p>(1)ウ</p> <p>(2)アウ</p> <p>(3)アイウ</p>
世界の基本図・拡大図 (p.5-92)	<p>【世界史 B】…世界の多様な地域の形成、交流と再編、結合の歴史を、地理的条件と関連づけながら理解する。</p> <p>【日本史 B】…中世国家と社会や文化の特色、日本と東アジアの関わりについて、国際環境と関連づけて考察する。</p> <p>【地理 B】…現代世界の地理的事象の空間的な規則性を理解し、多様な諸地域を地誌的に考察する。</p>	<p>(1)アイウ(2)アイウエ(3)アイウエ(4)アイウエオ(5)アイウエオ</p> <p>(2)イウ</p> <p>(1)アイ(2)アイウエ(3)アイウ</p>
世界の地域資料図 (p.5-92)	<p>【世界史 B】…世界のさまざまな地域の言語・民族・宗教の分布図、移民や国家形成に関わる資料図などから、諸地域世界が形成されていった過程を把握する。</p> <p>【日本史 B】…第一次・第二次世界大戦期の日本と世界の間関係を考察する。</p> <p>【地理 B】…地理的事象の地域特殊性や他地域との比較による共通性を理解するとともに、地理的な見方・考え方を学ぶ。</p>	<p>(1)アイウ(2)アイウエ(3)アイウエオ(4)アイウエオ(5)アイウエオ</p> <p>(5)イウ</p> <p>(1)アイ(2)アイウエ(3)アイウ</p>
日本の位置とまわりの国々 (p.93-94)	<p>【日本史 B】…現代の日本を構成する領土について正しく理解する。</p> <p>【地理 B】…我が国の国土の位置や領域、海流や海底地形などの自然環境について、正しく理解する。</p>	<p>(6)ア</p> <p>(2)ア</p> <p>(3)ウ</p>
日本の基本図・拡大図・都市圏図・都市図 (p.95-120)	<p>【日本史 B】…我が国の歴史を、史跡・歴史的に重要な地名、古戦場跡などの特殊凡例から理解するとともに、歴史の展開を地理的条件と関連づけて総合的に考察する。</p> <p>【地理 B】…自然環境や資源、産業、人口、都市・村落などに着目して国土の特色を考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探求する。</p>	<p>(1)アイウ(2)イウ(3)イウ(4)イウ(5)イウ(6)アイ</p> <p>(1)アイ</p> <p>(3)ウ</p>
世界の基礎資料図(p.4,121-138)	<p>【世界史 B】…地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題など、現代のグローバル化した世界の課題を理解する。</p> <p>【地理 B】…世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教などに関する諸事象を系統地理的に考察し、現代世界の諸課題を地球的視野から理解する。</p>	<p>(1)アウ(5)エオ</p> <p>(1)アイ</p> <p>(2)アイウエ</p> <p>(3)アイウ</p>
日本の資料図 (p.139-142)	<p>【世界史 B】…地理と歴史への関心を高め、日本の歴史と世界の歴史のつながりや世界史学習における地理的視点の重要性に気づく。</p> <p>【地理 B】…自然環境や資源、産業、人口、都市・村落などに着目して国土の特色を考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探求する。</p>	<p>(1)イ</p> <p>(1)アイ</p> <p>(3)ウ</p>
地図投影法 (p.143)	<p>【世界史 B】…地理と歴史への関心を高め、世界史学習における地理的視点の重要性に気づく。</p> <p>【地理 B】…投影法による違いや、地図の目的や用途に応じた投影法を知り、地図の有用性に気づく。</p>	<p>(1)ア</p> <p>(1)アイ</p> <p>(2)ア</p>

<p>地図にみる世界、デジタル地図、地球の歴史 (p.144)</p>	<p>【世界史 B】…地図にみる世界の歴史の変遷や地球の歴史から、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義を知る。</p> <p>【地理 B】…さまざまな時代や種類の世界地図の読図、地図情報の地図化などを通し、各時代の人々の世界観を捉えるとともに、地図の有用性に気づく。</p>	<p>(1)ア (1)アイ (2)ア</p>
<p>統計資料 (p.145-156)</p>	<p>【世界史 B】…地球世界の課題について、歴史的観点から探求する際に活用する。</p> <p>【地理 B】…地理的事象の基礎データを活用して、現代世界を系統地理的・地誌的に考察する。</p>	<p>(5)オ (1)イ(2)アイウエ (3)アイウ</p>
<p>世界の地形 (p.173-174)</p>	<p>【世界史 B】…自然環境と人類の関わりについて考察する。</p> <p>【地理 B】…世界の地形の分布や人間生活との関わりなどについて考察する。</p>	<p>(1)ア (2)ア(3)イ</p>